

# コミュニティ だより

徳島市コミュニティ協議会  
徳島市幸町2丁目5番地  
TEL(088)621-5510  
FAX(088)621-5511

## 加茂地区子どもを守る会 の活動

加茂地区子どもを守る会

会長 矢田 泰司

加茂地区子どもを守る会は、多様化する社会情勢に、地域の子どもたちの安全・安心に少しでも役立ちたいと、平成十六年、当時の加茂コミュニティ協議会長を中心に議論を重ねて、翌年一月、加茂コミュニティセンターにて発足式を行い、加茂地区子どもを守る会が誕生しました。

加茂地区子どもを守る会は、協力者の返事をいただき、黄色のジャンパーを着用しての実施が決定しました。早速自動車を購入、また、パトロール車乗務員は徳島西署（現徳島名西署）にて講習を受講しました。十一月にパトロール隊結成を挙行し、以降約五年間子どもたちの下校時におけるパトロール車の出勤率は、ほぼ百パーセントに近い成績で活動の折、防犯会長より青色パトロール車の加茂地区への配備が決まった

との連絡がありました。子どもを守る会では急ぎ役員会を開き、日程・場所等を討議し、千松小学校にて、贈呈式は体育館、神事を含む出発式はグラウンドでの開催となり、リーダー会員とともに加茂地区子どもを守る会の新しいネームプレートを付けて地区内初巡回に出発しました。

以上のような経緯を六年前、会長引き継ぎ時に前会長より聞くとともに、青色パトロール車は今も元気に健在で活躍中です。

現在、協力をいただいている小学校の先生方、PTA、各種団体は十二団体に増えまして、毎月下校時刻一覽表を頂き、下校時パトロール当番表にて青パトで巡回し、地域の宝である子どもたちが安全に、そして安心して登下校できるのはもちろんのこと、自由に外で活動（遊べる事を含む）でき



青色パトロール車

る環境づくり、地域づくりを目指し、立哨や青パトパトロールなど、先生方、PTA、地域の皆さま方と一体となって活動しております。

最後に、私たち「子どもを守る会」は、今後とも地域の

子どもたちが安全に安心して暮らし、遊び、学べる地域であるよう、関係者及び地域の皆さま方のご協力のもと、今まで以上に頑張っていきたいと思っております。

(加茂コミュニティ協議会)

# 川内町自主防災組織の活動

川内まちづくり協議会 原 信幸

川内町は吉野川河口の町、東は紀伊水道、南は吉野川、北と西は今切川と、文字通り

周囲を川に囲まれた川の内側に位置しております。自然豊かで暮らしやすいことが自慢



高速道路のり面にある避難用階段

ですが、半面、災害が発生した場合には地盤が弱く、また高い建物がなかったため、近年は南海トラフ地震における津波に対しては全町が「津波避難困難地域」と呼ばれていました。私の活動開始は、十五年ほど前にさかのぼります。水害が発生した場合を想定し、当時建設中であった高速道路に一時的に避難するための階段などの施設を設置することはできないかと、ネクスコ西日本徳島工事事務所を訪ねました。当初は全く聞き入れてもらえませんでした。しかし二〇一一年三月に発生した東日本大震災をきっかけに、対応の変化がありました。各地を襲う大津波の映像、本当に衝撃的で言葉を失いま

した。その中に宮城県仙台市の仙台東部道路の盛土が、内陸市街地への津波とがれき等の流入をせき止めた映像が放映されました。その映像を教訓として活かせないものかと、地域の方と何度も協議しました。そしてネクスコ西日本と徳島市に対し、高速道路の盛土のり面に一時的な避難場所を建設してほしい旨の陳情を行いました。その後も建設途中の高速道路を使用しての避難訓練を何回も行い、要望を続けました。陳情から約八年、二〇二〇年三月に町内八カ所(仮二カ所含む)、約四千百名分の一時避難場所が完成しました。

徳島市から、これで津波避難困難地域から解消されたといわれましたが、まだ問題があります。徳島市指導の下、二〇一五年に津波避難支援マップを作成しました。その時点では避難場所は二カ所しか完成していなかったのですが、マップには二カ所しか掲載できておりません。未完成であった六カ所付近の避難方向を示す矢印は、完成後の逆を向いています。津波避難支援マップを早急に更新する必要があると思いますが、残念ながら話は進んでおりません。ハードとソフトの両方が揃ってこそ解消といえると思います。

南海トラフ巨大地震がいつ発生するかわかりませんが、有事に備えて命を守る、被害者をゼロにすることが私たちの自主防災組織の目的であります。これからも定期的に避難訓練を実施しながら、行政等とともに地域の安全推進に努めたいと思います。



# 第8回津田の歴史・史跡めぐり&防災ウォーク

津田コミュニティ協議会 広報部会長 藤野 智子



津田コミュニティ協議会は、毎月十七日に定例会を開いています。総務、文化、健康、広報、環境、福祉、こんせ部に分かれて活動しています。今回は全体が参加協力する「三世代交流、津田の歴史・史跡めぐり」と「防災ウォーク」の行事についてご紹介します。

この活動は親・子・孫の三世代が交流しながら史跡をめぐり、歴史を学ぶことにより、世代間のつながりを強め町の活性化を図ることを目的に、



津田小学校体育館前に集合

平成二十四年から始まりました。第五回目からは防災活動の一環として「防災ウォーク」も兼ねることになりました。令和元年十一月十六日(土)に第八回目を迎えました。津田小学校に集合し、津波避難場所や避難の心得について、津田新浜地区自主防災連絡協議会の方から

学びました。その後、三班に分かれて津田山近辺にある、石将軍・北向き地藏・山の神・三界地藏・法印屋敷跡・避病舎跡(せんだんの木)・津田山避難所・六地藏・穴観音・山瀬三蔵の墓・首無し地藏をめぐりました。その後、各史跡についての〇×クイズでは、島田会長の出題に説明を思い出しながら挑戦しました。文化部会の方々を中心に場所ごとに説明をしていただき、史跡の意味を知ることができました。他にも津田港周辺や、新浜、西新浜方面にもまだまだたくさん史跡があります。歴史や文化を伝え継ぎ、三世代の交流が深まることを願います。

また、令和二年四月五日(日)に行う予定でした津田地区の一大イベント「六右衛門まつり」は、新型コロナウイルスの大流行により残念ながら中止となりました。来年津田みどり公園で行う「六右衛門まつり」には、ぜひみなさまのお越しをお待ちしています。そして、津田海岸町では高速道路工事が急ピッチで進行中です。新町川両岸近くでは橋脚が林立している様子もご覧いただけます。



北向き地藏前



避病舎跡

# 地域コミュニティの充実を願って

西富田コミュニティ協議会  
広報部会長 岡田 佳子

西富田コミュニティ協議会は、地域の各種団体と公民館で組織されています。各種団体は二十三団体と二十四町内会です。  
コミュニティ協議会には役員会及び総会、専門部会があり、年間の主催事業等を協議し、事業を推進しています。  
専門部会は、年間を通して事業計画を立て、地域住民の連帯感の高揚と健康福祉、高

齢者から幼児まで参加できる事業等展開しています。

★主な主催事業

- \* 歴史の町西富田を歩く
- \* 西富田カフェ
- \* 西富田コミセンまつり
- \* 西富田まつり芸能大会
- \* いきいきサロン
- \* 避難訓練と防災教室
- \* 高齢者と幼児の集い
- \* ミニ銅鐸つくり
- \* ミニ門松つくり
- \* 百人一首とお抹茶体験
- \* 「広報にしとみだ」発刊
- ★主な共催・助成事業
- \* こどもの日歩け歩け大会
- \* 阿波伝統文化藍染め教室



ミニ門松づくり

これらの事業は、役員だけでできるものではなく、多くの方々のボランティアの協力をいただいております。これからもボランティア精神や温かい人間性溢れる地域になるよう、積極的に新しい事業も採り入れ充実をはかって参ります。

\* 百歳体操

\* 料理教室

\* フラダンス教室

\* 夏休みラジオ体操

\* 救急救命法講習会

\* 西富田まつり美術展

\* 敬老会

\* 年末カンカラ缶運動

\* 三世代餅つき大会

\* 成人式

\* 小学校卒業を祝う会

以上のような地域活性化につながる数多くの事業により、地域全体の連携をはかり、幼児から高齢者まで、住んでよかった西富田を実感し、地域のすばらしさに目を向ける取り組みを展開しています。

## 渭北地区のコミュニティ活動

渭北街づくり協議会 会長 近藤 辰夫



西富田コミセンまつり 駄菓子釣り

渭北街づくり協議会は町内会連合会、体育協会、自主防災会連絡協議会、民生委員協議会、そして渭北公民館など十の団体から構成されています。これらの団体が単独もしくは互いに連携しているいろいろなコミュニティ活動を運営しているわけですが、その中から特徴のあるイベントをご紹介します。

「渭北歩こう大会」というウォーキング大会です。主催は町内会連合会で助任小学校PTA・渭北体育協会・渭北街づくり協議会の協賛を得ています。昨年ですでに十九回を数えましたが毎年十月の体育の日に吉野川南岸のウォーキング道路で行っています。以前は渭北地区全体の地区別対抗運動会を行っていたのですが会場であった徳島中学校の全面建て替えに伴い二年間の中断を余儀なくされました。住民総参加のイベントがなくなる危機に瀕しましたが、地区民どうしの交流の機会を絶やすまい！という声の下にウォーキング大会として姿を



吉野川南岸での「渭北歩こう会」

変えて継続しました。当初は四キロ・六キロ・十キロの三コースで実施してきましたが、伴走者の高齢化や帰着時刻のずれが大きいことなどから最終完走者の帰着に一時半以上かかる十キロコースは中止しました。  
現在は老若男女約三百五十名が、全員のラジオ体操から始まり、初心者向け四キロコース・健脚向け六キロコースに分かれて完歩賞を目指します。コースは整備されたウォーキング道路で車の往来もなく景色の良い中を気持ちよく歩くことができます。そして、参加したみんなが和気あいあいと元気に汗を流すのが目的ですので、小雨中止！ですが、ここ数年は天候にも恵まれて人が人もなく無事に終了しています。全員が帰着後はお土産をもらったあとで

子どもの部と大人の部に分かれてジャンケン大会を行います。みんなが揃って解散しよう！という仕組みにしたわけですが、地区内の事業所様から提供いただいた賞品をめぐって大人も子どもも大いに盛り上がります。

# 新町コミュニティ協議会の活動紹介

## 新町コミュニティ協議会

新町コミュニティ協議会は、緑豊かな眉山の麓、新町小学校と隣接した新町公民館に事務所を置き活動しています。年々少子高齢化が進みコミュニティ協議会の役割が一層重要になっています。より多くの地域の方々との繋がりを広げていくことが地域の活性化につながるのではないかと思いい様々な活動をしています。現在コミュニティ協議会が行っている事業を紹介しま

す。一つは先輩方と地域ボランティアの方々が協力して続けてきた「芸能まつり」です。今年で二十五回目となり日頃公民館やサークルで研鑽を積んだ趣味や活動の発表の場、また親睦の場でもあります。毎年多数の申込がある演芸の部では日本舞踊、三味線、カラオケ、朗読など多様な演目が行われ文化展では絵画、手工芸、彫刻などを展示しています。仏像彫刻の中には賞を



芸能まつり 文化展

受けた作品もあり見応え十分です。お昼には婦人会を中心に地域の皆さんで準備したうどんとおでんを模擬店で販売し毎年大好評です。演目がすべて終了するとお待ちかねの抽選会です。抽選番号が読み上げられるたびに大歓声で盛り上がりります。地域のふれあいの場としていつまでも続けていきたいと思っています。  
もう一つの事業は昨年より始めた「もちつき」です。町内会、新町小学校の協力を得て二月に行っています。低学年生が杵をふりおろし餅をつ



もちつきの様子

く姿は微笑ましく、周りを明るく楽しい雰囲気にしてくれます。昨年の経験を生かして今年も順調にもちつきが行われ、新しい参加者も増え昨年より一段と盛り上がりました。高齢者の多い新町地区には若い方や子どもたちの活気が欠かせません。催しの内容により参加者の顔ぶれも多少変わります。より多くの世代の方々に参加してもらい地域の繋がりを広くしていくにはどのような計画を立てどのようなアピールをしていけばいいか試行錯誤の繰り返しです。

# 八万文化祭

## 八万コミュニティ推進協議会

八万文化祭は、「文化の町八万」を目指して八万コミュニティ推進協議会・八万中央コミュニティ推進協議会・八万公民館が主催者となり、毎年十一月中旬に二日間をわたり行われ昨年で三十五回を数えております。



舞台上の八万・八万南両幼稚園の大作

会場入口では「八万花の会」による花の寄植え四十鉢が来場者を出迎え、第一会場の体育館では洋画・書道・木彫・生け花・手工芸・写真・ちぎり絵・パッチワーク・和紙人形・陶器など二十五部門の作品が展示され、舞台には



絵画などの作品展示

八万・八万南両幼稚園の大作が一面に飾られ、八万両学童保育の絵馬が壁に飾られ、「伝統文化子ども生け花」の子どもたちによる生け花が、そして書道教室の作品や八万中学校美術部・書道部の作品、八万両小学校の書道・絵画が会場いっぱい展示されています。またパッチワークの教室や、病院のご協力による血圧測定も行っています。

第二会場ではグループホームの六施設の皆さんの出品物が展示されており、二階では八万婦人会によるバザーが行われ大勢の人たちで賑わっております。来場者も二日間で六百人を超え、ロビーと控室でどら焼きとコーヒーを、子どもたちにはパットライスが振る舞われ楽しんでいただいております。

文化祭を開催するための準備として翌日の片付けも町内の防犯委員の方々を始め五十名ほどの町内の方にパネル立てや展示、解体、片付けまでお手伝いをいただいております。



「八万花の会」による花の寄植え

このように、町民が一体となり正に地区を挙げての文化祭で地区の芸術・文化や生涯学習の原動力となっており、これからも続けて盛り上げていきたいと考えています。



グループホームの皆さんの作品

新型コロナウイルス感染症の影響により、各地域のコミュニティ協議会も厳しい事態に直面しています。みなさまの出来る範囲の感染症予防でこの事態をみんなで乗り越えましょう。

### 編集後記

さて、八十八号をお届けします。加茂地区の子どもを守る会の現状と青パトの運用などを通し子どもを見守っています。川内地区では、高速道路ののり面に一時避難場所を八カ所つくる努力が紹介されています。津田地区では地域の史跡めぐり・防災ウォークが八回を重ねます。地域の活性化に役立っています。西富田地区ではいろいろな行事の紹介、涓北地区では「歩こう会」の紹介で地区を盛り上げています。新町地区では、二十五回を迎える「芸能祭り」や「もちつき」で地域のつながりを強くしています。これからもみなさまのご協力を願い一刻も早くコロナが終息しますようよろしくお祈りします。

(大川良文 記)